向陵広場

発行号　第146号
発行日　令和6年6月18日（火）
発行元　向陵編集校友会
責任者　伊藤有司（県商10回卒）

中日新聞　２０２４年（令和６年）５月３１日（金曜日）　掲載記事

Culture

伝統的な日本画の枠を超え、独自の表現世界を確立して「日本画壇の風雲児」と称された愛知県豊橋市出身の画家中村正義（1924～77年）が今月、生誕100年を迎えた。60年に東京で開いた個展「風景と人物」が飛躍のきっかけとされるが、全11点の出展作のうち２点の所在が分からなくなっている。「全ての作品をもう一度並べ、父の描いた〝風景〟を自分も見てみたい」。開催当時４歳だった長女の倫子（のりこ）さん(68)が、その行方を追っている。（宮崎正嗣）

中村正義の風景画 どこに

64年前に脚光 個展出展の2作品

「庭先」

「桜」

いずれも1960年、中村正義の美術館提供

所在不明の作品は、60年に描かれた「桜」と「庭先」。「桜」は81年に刊行された正義の画集にカラーで掲載されたが、「庭先」は「風景と人物」展に合わせて作られたモノクロの絵はがきしか残っていない。

同展は、東京・日本橋の高島屋東京店（現・日本橋店）で60年6月21～25日に開催。正義は36歳にして日展審査員に推挙され、画壇で確固たる地位を築きつつあった。この時期の風景画にはセピア色を基調にした画面が目立ち、独自の表現を模索していた様子がうかがえる。正義は東京で初となるこの個展に、倫子さんをモデルにした「子供」と風景画10点を出展。「子供」は会期中に買い取られたが、わが子を描いた作品が数点しかなかった正義にとって思い入れが特に強かったらしく、晩年に買い戻されている。

他の出展作については「峠への路」「林」「家」の3点がその後、愛知県内の三つの公立美術館にそれぞれ所蔵され、「樹」は個人所有となっているのが分かっている。今月に入って、長らく行方が分からなくなっていた「皐月（さつき）」が豊橋市内のギャラリーで見つかり、一般に公開された。正義の自宅兼アトリエを改装した「中村正義の美術館」（川崎市麻生区）で館長を務める倫子さんも、88年の開館以降、「農家」「樹間」「凍る朝」の3点を画商などから購入してきた。

「（正義の）風景画は人気だったからか、手元にはほとんど残らなかった」と倫子さん。近年、「風景と人物」展をあらためて振り返ったことで、正義の風景画にも関心を持つようになったという。「従来の日本画のように象徴的な何かではなく、雑木林のようなありふれた風景を描いている。中村正義といえば、大胆な色使いで見る人に迫る〝顔〟シリーズのイメージが強いかもしれないが、父が日常の風景をどう見つめていたのか、素顔に迫りたい」。残る2点の所在を気にかける動機をこう語り「情報があれば、ぜひ寄せてほしい」と呼びかける。

晩年に中村正義が買い戻した作品「子供」を見つめる長女の倫子さん＝川崎市麻生区で

「風景と人物」展で来場者を出迎える中村正義（左）＝東京・日本橋で（中村正義の美術館提供）

「峠への路」（愛知県美術館蔵）

「林」（刈谷市美術館蔵）

情報求める娘「父の素顔 迫りたい」

生誕100年 日本画壇の風雲児

なかむら・まさよし　日本画家の中村岳陵に師事し、22歳で日展に初入選。1960年、中日文化賞受賞。翌年に日展を脱退後は「源平海戦絵巻」5部作（東京国立近代美術館蔵）や「顔」シリーズなどで新たな表現を切り開いた。77年、肺がんのため死去。豊橋市美術博物館で、来年2月22日～3月30日に「生誕100年 中村正義」展が開かれる。所在不明の「桜」「庭先」に関する情報提供は「中村正義の美術館」＝電044(953)4936＝へ。